

平成12年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況 (要 約)

1 平成12年度の実施状況

平成12年度は、管理経営基本計画（計画期間：平成11年1月～平成21年3月）の2年目に当たることから、平成11年度に着手した各種の取組を着実かつ幅広く展開した。本報告においては、この点について国民の皆さんの理解が得られるよう、写真と図表を使ってできるだけ分かりやすく記載した。

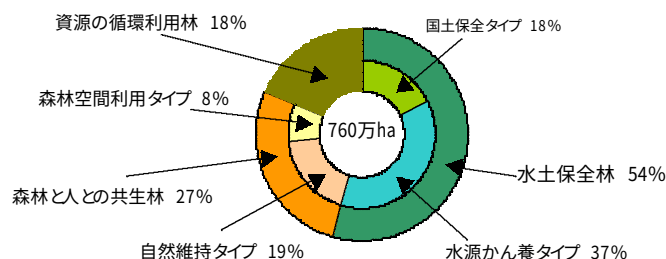
「管理経営基本計画」の主な内容

- ・ 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営への転換
- ・ 森林の流域管理システムの下での民有林との連携の強化
- ・ 「国民の森林」としての国民に開かれた管理経営の推進
- ・ 優れた自然環境を有する森林の維持・保存対策の充実
- ・ 事業実行の民間委託化の推進と組織・要員の合理化・縮減

2 平成12年度の主な取組

(1) 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営への転換

- ・ 3つの機能類型区分（水土保持林、森林と人との共生林、資源の循環利用林）に応じた森林づくりを推進。（本文4ページ）



- ・ 公益的機能を重視した森林づくりをPRするため、121箇所、約2千haのモデル林を設定。（本文5ページ）



公益的機能の発揮を重視した複層林施業を間近で見学できるように、町道沿いの森林をモデル林に設定。また、近くの保護林等と組み合わせて、見学コースを設定し、パンフレットを作成。

〔岐阜県小坂町〕

（中部森林管理局名古屋分局

岐阜森林管理署）

- ・文化財の修復に必要な木材や檜皮^{ひわだ}を確保するための森林づくりに着手。（本文32ページ）



四国森林管理局では、歴史的木造建築物の修復等に必要な大径材や檜皮^{ひわだ}等の需要に応えるため、資源の循環利用林において、スギ、ヒノキの人工林3箇所、約84haを「文化財資源備蓄林」に設定。

〔高知県安芸市〕

（四国森林管理局 安芸森林管理署）

（2）流域管理システムの推進

- ・民有林行政と国有林野事業が協力し、林道事業、治山事業等を効率的に実施。（本文14ページ）

中部森林管理局では、長野県との間で、森林づくりを進めるための「森林共同整備団地の設定に関する覚書」を締結。これは、国有林と民有林が隣接する地域において、関係者が協定を結んで「森林共同整備団地」を設定し、一体的に整備していくもの。

（中部森林管理局）

- ・下流域の方が上流域で行う森林づくりに国有林野を提供。（本文16ページ）



鶴川^{むかわ}において、森林管理署の呼びかけで、上流部の林業活動グループと下流部の漁業協同組合婦人部の連携により、上流部の国有林をフィールドとした森林づくりが実現。

〔北海道占冠村〕

（北海道森林管理局 胆振東部森林管理署、北海道森林管理局旭川分局

上川南部森林管理署）

(3) 国民に開かれた管理経営の推進

- ・ボランティアによる森林づくり活動のためのフィールドとして、全国60箇所に「ふれあいの森」を設定。平成12年度には、延べ7,000人の方々が活動に参加。（本文44ページ）



琵琶湖西岸の「ふれあいの森」について、下流にあたる大阪府のNPO法人と森林整備等に関する協定を締結。多くの都市住民の参加の下、植栽、下刈等の森林づくり活動が行われた。

〔滋賀県志賀町〕

（近畿中国森林管理局

滋賀森林管理署）

- ・教育機関と連携して森林環境教育を行ったり、教育関係者の研修に協力。延べ2万人の方々が参加。（本文19ページ）

教育関係機関との連携による森林環境教育の取組状況

連携機関	回数	参加者数	主な取組内容
小学校	195	10,848	森林と人との係わりについての森林教室や植樹等の体験林業を実施。
中学校	49	2,100	国有林の役割等について、中学校の授業に講師を派遣。
高校・大学	40	3,205	農業高校の生徒を対象に、除伐作業、ブナの実の苗床への播種等の体験林業を実施。
教育委員会	30	2,629	森林環境教育を実践する教師を対象にした体験林業学習研修会に協力。
その他	21	1,336	養護学校の園児を対象に、自然休養林において森林教室を実施。
計	335	20,118	



教育委員会からの依頼により、社会貢献活動の体験研修生として、教職員15名を受け入れ。下刈の体験や、自然観察教育林の巡視等を実施。

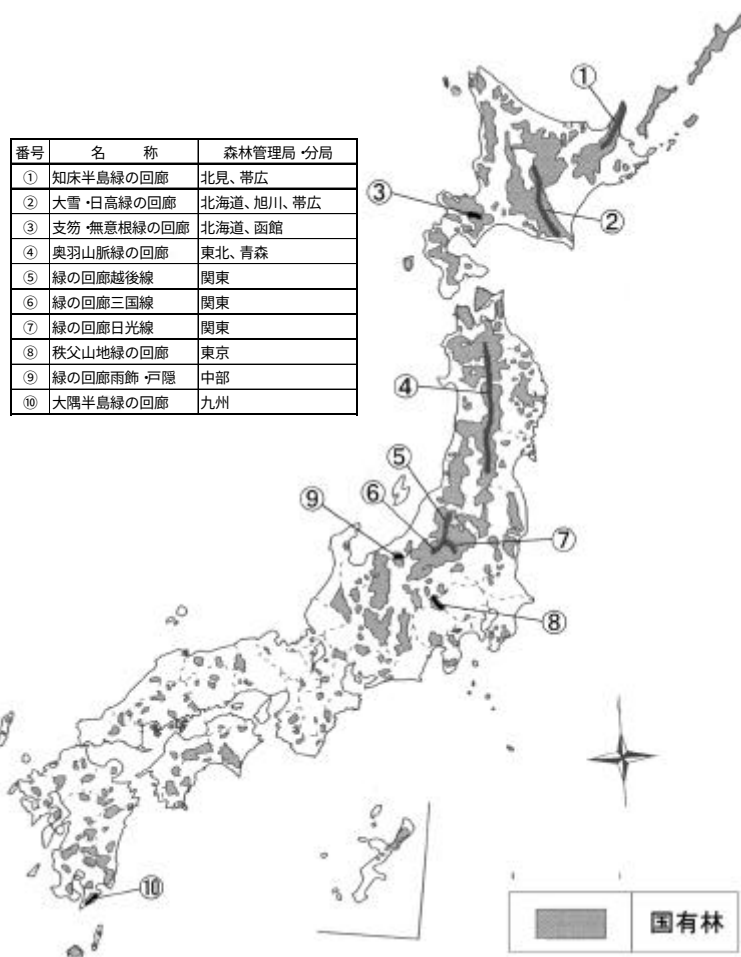
〔秋田県大館市ほか〕

（東北森林管理局 米代東部森林管理署ほか）

(4) 優れた自然環境を有する森林の維持・保存対策の充実

- ・保護林どうしを連結して野生動物等が移動できるようにするための「緑の回廊」の設定を開始。平成12年度には、10箇所、約20万haを設定。（本文26ページ）

緑の回廊の設定状況



- ・「森の巨人たち百選」に選ばれた巨樹・巨木の保護のため、保護柵の設置、樹勢の診断等を実施。（本文46ページ）



「平湯大ネズコ」

樹高 23m／幹周 760cm／樹齢 1,000年
都市住民のボランティアにより、付近のキャンプ場からこの巨木まで約400mの歩道が開設された。

〔岐阜県上宝村〕

（中部森林管理局名古屋分局

飛騨森林管理署）

(5) 林産物の供給

- ・自然環境の保全等に配慮しつつ、491万 m^3 の木材を収穫。（本文32ページ）

収穫の実施状況（単位：万 m^3 ）

区 分	平成12年度	(参考)平成11年度
主 伐	202	232
間 伐	289	257
合 計	491	488

- ・国有林野にしかない樹種や大径材を、公共建築物や社寺等の建築・改築に必要な特殊規格材として販売。（本文33ページ）

公共建築物への供給事例

樹種	材積(m^3)	内 容
木曽ヒノキ	37	環境省自然保護局中部地区自然保護センター事務所の「上高地ビジターセンター」の新築用資材として、木曽ヒノキを供給しました。 (中部森林管理局) (左下の写真参照)
カラマツ、スギ	156	長野県和田村から、小学校校舎の建設に地元産の高齢級材を使用したいとの要請を受けて、カラマツとスギを供給しました。 (中部森林管理局) (右下の写真参照)



(6) 地球温暖化対策への寄与

- ・国有林野内の自然エネルギー（風力、小水力、森林バイオマス）の利用について、検討会を開催。これを受け、自然エネルギーを利用した発電のために国有林野を貸し付ける場合の基準を検討。（本文48ページ）



福島県天栄村では、村営スキー場への電力供給を目的に、国有林野内に風力発電施設4基を設置。
〔福島県天栄村〕
(関東森林管理局
福島森林管理署白河支署)

- ・ 治山事業、林道事業等での木材の利用を推進。（本文48ページ）

国有林林道事業及び治山事業における木材・木製品の使用状況
(単位:m3)

区 分	平成12年度	(参考)平成11年度
林 道 事 業	6,930	4,514
治 山 事 業	28,790	16,423
計	35,720	20,937



旭川分局では、治山事業、林道事業等に、木橋、丸太を活用した法面保護工など、間伐材を利用した様々な工法を導入。また、間伐材の使用事例マップを作成するなど、間伐材の利用促進のために積極的なPR活動を実施。

(北海道森林管理局旭川分局)

(7) 事業実行の民間委託化と、組織・要員の合理化・縮減

- ・ 伐採、造林等の実施行為の民間委託化を推進。（本文38ページ）

民間委託の実施状況

区 分	平成12年度	(参考)平成11年度
伐採(素材生産)	556千m ³ (100)	692千m ³ (100)
委 託	491千m ³ (88)	571千m ³ (83)
人工造林	4,006ha (100)	4,763ha (100)
委 託	3,055ha (76)	3,620ha (76)
保育(下刈)	107,501ha (100)	112,010ha (100)
委 託	93,508ha (87)	90,728ha (81)

注： ()は、全体に占める委託の割合(%)である。

- ・ 暫定組織である事務所等について、7割以上に当たる150箇所を平成13年8月に廃止することを、平成13年3月に公表。（本文39ページ）
- ・ 省庁間の配置転換等により、職員数を1,165人縮減。（本文39ページ）